



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

## 武蔵野赤十字病院

2026年 冬

〒180-8610  
東京都武蔵野市境南町1-26-1  
TEL 0422-32-3111

季刊 情報誌

# Eye むさしの

ごあいさつ

心臓血管外科  
部長 染谷 毅



10月1日付で心臓血管外科部長として赴任しました染谷毅と申します。

専門は成人心臓血管外科で、虚血性心疾患、弁膜症疾患、大動脈疾患に対する外科治療を行っております。この度縁あって12月に生まれ変わった武蔵野赤十字病院に赴任することとなり、とても嬉しく思います。新病院ではハイブリッド手術室やダビンチ手術ロボットなど、より多くの患者さんに高度な最新医療を提供できるようになります。地域の皆さまの期待にお応えできるよう努力いたしますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ごあいさつ

小児科  
部長 岡田麻理

このたび第2小児科部長を拝命いたしました。地域の皆様に寄り添い、子どもたちの健やかな成長を支える医療の充実に努めてまいります。安心してご相談いただける診療体制を築いてまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 頼れる病院をめざします



### 基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

### 基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります



## 新年のごあいさつ

院長 黒崎 雅之

新年を迎え、皆さまに謹んでご挨拶申し上げます。

このたび、より安全で質の高い医療を提供するため、2025年12月1日に新棟を開院しました。外来および一部既存病棟は引き続き使用しつつ、入院病床の大部分を新病棟へ移転しています。災害拠点病院として、災害時にも機能を維持できる設備を備え、地域支援病院・救命救急センターとして救急医療体制のさらなる充実を図りました。

新病棟は全室個室としましたので、感染症流行時にも適切な管理が可能で、患者さんにとって快適で安心できる療養環境となりました。プライバシーが守られた静かな環境でゆっくりと療養に専念いただきたいと思います。

地域周産期母子医療センターとして、産科外来と病棟、分娩室、新生児集中治療室を1つのフロアに集約し、無痛分娩からハイリスク分娩まで、幅広く対応できる体制を整えました。産後ケアにも力を入れ、妊娠期から出産後まで切れ目のない支援を行ってまいります。

また、地域がん診療拠点病院として、体に優しく、精度の高いがん診療を推進します。手術室や内視鏡検査室を増やし、手術支援ロボットを2台体制にしたので、泌尿器科、婦人科、消化器外科、呼吸器外科などで、傷口が小さく、体力の回復が早いロボット支援手術や内視鏡手術をより多くの患者さんに提供できるようになりました。PET-CTも導入しましたので、さらに精度の高いがん医療の提供が可能となりました。がんの遺伝子を調べて個々に合った治療法を探すがんゲノム医療にも対応しています。

血管撮影装置を組み込んだハイブリッド手術室もつくりましたので、胸を大きく開かずにカテーテルを使って心臓の弁を人工弁に置き換えるTAVIという治療も可能になりました。体に優しい低侵襲な整形外科手術もますます推進してゆきます。

総合力の高さを強みとする当院では、さまざまな病気を同時に抱えている患者さんに対しても、あらゆる診療科が連携して対応できます。私たちは、創立以来の基本理念である「愛の病院」をこれからも真摯に実践し、患者さんと地域のために質の高い医療を提供し、信頼される病院であり続けるよう努めてまいります。



## 新年のごあいさつ

看護部長 奥田 悦子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、当院の医療提供体制に対し、地域医師会の先生方より格別のご支援とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。また地域の皆様には、紙面をお借りして当院の新棟について少しご説明させていただきます。

昨年12月1日、当院は機能の多くを新棟へ移転し、高度急性期医療をより適切に提供できる環境が整いました。新棟では、高度急性期病院としての役割を果たすための機能の充実や手術センターや血管治療／放射線・内視鏡エリアの拡充に加え、さまざまなIoT機器を導入し、リアルタイムモニタリングや情報共有の迅速化を図っております。これにより、医療現場の安全性向上と業務効率化が進み、患者さんに対する質の高い医療やケアをより安定して提供できる環境を整えました。

また「患者支援センター」は、地域の先生方との連携窓口となる医療連携センターの機能に加え、入院前支援センターや様々な部署に関わる患者さんのお困りごとに対応できるよう1階のわかりやすい位置に配置いたしました。

さらに、医療・看護DXの推進にも力を注ぎ、電子カルテの高度活用、データ連携の強化、眠りSCANや見守りカメラの導入など、予定された入院治療が計画通りにいよう支援する環境と、急性期から在宅まで切れ目のない医療を支える基盤整備を進めております。これらの取り組みは、退院支援や情報共有の質向上にも大きく寄与するものと考えております。

看護部としては、急性期医療の専門性向上とともに、地域医療を支える看護職員の育成にも引き続き取り組んでまいります。新棟移転を契機に、教育環境の整備や研修プログラムの拡充を進め、地域全体の医療の質向上に貢献できる人材育成を目指してまいります。

本年も、地域の皆さまが安心して医療を受けられる体制づくりに向け、地域の先生方との協働をさらに深め、より良い医療提供に努めてまいります。